

二〇〇六年二月五日  
二〇〇七年二月五日  
発行刷



第90巻 第1号 史学・地理学・考古学

# 特集 国 境

*FRONTIERS, BOUNDARIES, BORDERS, AND LIMITS*

特集「国境」によせて……………紀平英作（1）

論 説

倭と蝦夷と律令国家……………藤沢敦（4）  
—考古学的文化の変移と国家・民族の境界—

契丹・宋間の澶淵体制における国境……………古松崇志（28）

近代西アジアにおける国境の成立……………守川知子（62）  
—イラン=オスマン国境を中心に—

未征服地分配の言説……………合田昌史（92）  
—レコンキスタから世界分割へ—

近世日本の西北境界……………池内敏（123）

戦間期のソ連西北部国境における民族問題と  
スターリンの政策……………寺山恭輔（147）  
—フィンランドとレニングラード、カレリア—

戦後沖縄の境界・領域と政治行動……………山崎孝史（179）  
—領土の分離・統合と闘争のイデオロギ—

コメント1・考古学から見た「国境」「境界」……………上原真人（210）

コメント2・歴史学における「境界」……………濱田正美（217）

二〇〇六年度史学研究会大会講演要旨  
二〇〇六年度史学研究会大会・総会の記録

史 学 研 究 会  
京都大学文学部内

された。

庶務（田中和子常務理事）からは、会則の変更（理事の人数を二五から三五に変更、庶務委員の設置について記載を追加）について提案があり、承認された。会員数・史林送付数の動向、役員の交代、名簿の発行・発送、事務局の刷新などについて報告があった。また、二〇〇七年四月二一日（土）の例会開催（テーマ「モニュメント」）が案内された。

編集（杉山正明常務理事）からは、『史林』が順調に刊行されていること、二〇〇六年四月に開催された「国境」をテーマとしたシンポジウム形式の例会の発表と討論が九〇巻一号の特集号にまとめられる予定であることが報告された。

会計（吉川真司常務理事）からは、二〇〇五年度決算報告、および二〇〇六年度予算案が提案され、拍手で承認された。

広報については、吉井秀夫常務理事（海外出張中）に代わり、吉川真司常務理事から、ホームページの運用や例会・大会ポスターの作成・発送について報告があった。これに引きつづき、公開講演が行なわれた。講演は次の二本であった。

服部 良久氏

「中・近世農村社会における紛争と

紛争解決——日・欧の比較——」

久武 哲也氏

「環境史研究と歴史地理学

——森林水源涸渇論をめぐって——」

講演者紹介と討論司会は、南川高志理事と金田章裕理事長がつとめた。講演内容は本号に掲載されているが、ともに斬新な着眼による意欲的な研究報告であった。聴衆の関心も高く、討論が活発に行なわれた。

公開講演ののち、泉拓良理事が閉会の辞を述べた。大会終了後、今年度からの企画として、オープンな立食形式の懇親会が開かれ、学生・院生を含む大勢の会員の参加があった。

（文責・田中和子）

## 受贈誌

二〇〇六年六月二九日

二〇〇七年一月九日

神道宗教（神道宗教学会）二〇一―二〇二

人文学報（京都大学人文科学研究所）九

三

人文学報（小樽商科大学）一一二

人文地理（人文地理学会）五八一―五

成大歴史学報（国立成功大学歴史学系）三

〇

政治経済史学（日本政治経済史学研究所）

四七三―四八四

撰大人文学科（撰南大学外国語学部）一四

専修史学（専修大学歴史学会）四一

中央研究院 歴史語言研究所集刊（中央研

究院歴史語言研究所）七七一―七四四

長野県立歴史館たより（長野県立歴史館）

四八一―四九

東方學報（京都大学人文科学研究所）京都

七八

東方學會報（東方学会）九一

東洋史研究（東洋史研究会）六五一―二

東洋學報（東洋文庫）八七一―八八―三

栃木県立文書館だより (栃木県立文書館)

四〇

日本学刊 JAPANESE STUDIES (中国社  
会科学院 日本研究所 中華日本学会) 二〇〇  
〇六一四〜五

日本学士院紀要 (日本学士院) 六一一

日本研究 国際日本文化研究センター紀要  
(国際日本文化研究センター) 三三三

日本史研究 (日本史研究会) 五三〇〜五三  
三

日本民俗学 (日本民俗学会) 二四八

福建師範大學學報哲学社会科学版 (福建師  
範大學圖書館) 一三〇〜一三五

文化 (東北大学文学会) 六九一三・四  
文化史學 (文化史学会) 六一一

立命館産業社会論集 (立命館産業社会学  
会) 四二二

立命館史學 (立命館史学会) 二七  
立命館文学 (立命館大学人文学会) 五九六

会 告

本号は定価二〇〇円ですが、会員価  
格は一二〇〇円に致します。

編 集 後 記

史学研究会では、二〇〇六年四月三日、  
久々の例会を開催いたしました。この例会  
では、「国境」を共通テーマとして、考古  
学・東洋史・西南アジア史・西洋史・日本  
史・現代史・地理学という各専攻分野から  
七名の論者が研究報告を行った後、二名の  
コメンテーターによってそれぞれの報告に  
対してコメントが寄せられ、報告後の質疑  
応答と最後の総合討論を含め、活発な議論  
が行われました。本号は、この例会当日に  
なされた報告とコメントをもとに、各著者  
がまとめたおしと七本の論説と二本のコメ  
ントを掲載して、「特集 国境」といたし  
ました。歴史上の多様な「国境」について  
再考する契機となれば幸いに存じます。

こうした歴史学における普遍的な共通  
テーマを選んで、諸分野の研究者が研究成  
果を報告し、専門領域を乗り越えて相互の  
理解と議論を深め、ひろやかな視野を共有  
しながら、改めて歴史学の重要な問題を考  
えなおしてみたいという今回の新しい試み  
は、地域・時代を問わず多様な歴史研究の  
最新成果を発表する場であります弊誌なれ

ばこそ企画として、今後も継続してい  
たいと考えております。そのような次第で、  
次頁にお知らせしておりますように、本年  
四月二日、「モニユメント」という共通  
テーマで、前年に引き続き例会を開催す  
ることを決定いたしました。歴史研究に関心  
を寄せる多数の方々のご参加を心よりお待  
ち申し上げております。(十七)

◆史学研究会ホームページ・アドレス

<http://www.soc.ni.ac.jp/shr/index.html>

本誌には独立行政法人日本学術振興会  
平成一八年度科学研究費補助金(研究  
成果公開促進費)が交付されております。

二〇〇六年二月五日印刷 定価二〇〇円  
二〇〇七年一月一日発行

史 林 第九〇巻第一号(通巻第四六一号)

京都市左京区吉田本町京都大学文学部内

電 話 七五三・二七八七  
F A X 七五三・二七八七

発行人 史 学 研 究 会

振替京部 〇一〇七〇・二五二五番  
理事長 金 田 章 裕

印刷所

中村印刷株式会社  
京都市南区上鳥羽薬田元

## 史学研究会例会のお知らせ

左記の通り、史学研究会例会を開催いたします。多数ご来会いただきますようご案内申し上げます。

日時 平成一九年（二〇〇七年）四月二日（土） 九時三〇分～一二時三〇分  
一三時三〇分～一八時

場所 京都大学文学部新館 第三講義室

テーマ 「モニュメント」

開会の挨拶 金田 章裕

### 《午前の部》

1. 松井 嘉徳「はじまりの記憶——銘文・詩のなかの祖考たち——」  
【東洋史】
2. 河野 一隆「倭王権から倭国へ——世界システムとしての古墳文化——」  
【考古学】
3. 堀 裕「平安時代の御願寺と天皇」  
【日本史】
4. 井谷 鋼造「歴史的なモニュメントの碑文が語るもの——西アジアの場合——」  
【西南アジア史】

### 《午後の部》

5. 竹中 幸史「ルーアンにおけるナポレオンの騎馬像」  
【西洋史】
6. 中村 武司「ネルソンの国葬——セント・ポール大聖堂における軍事顕彰とモニュメント——」  
【二十世紀学】
7. 滝波 章弘「シチュアシオニストとカウンターモニュメント」  
【地理学】
8. 浜井 和史「戦没者慰霊と日本外交——外務省記録に見る慰霊碑建立の諸相——」  
【現代史】

### 総合討論

コメンテーター 杉本 淑彦

西山 良平

司 会 杉山 正明

総合司会 田中 和子 司会（午前） 吉川 真司 司会（午後） 吉井 秀夫

（報告題目は変更となる場合がございます）

なお、例会終了後、懇親会（無料）を予定しております。

史 学 研 究 会

# THE SHIRIN

or the

## JOURNAL OF HISTORY

---

Vol. XC No. 1

January 2007

---

Special Issue

### *FRONTIERS, BOUNDARIES, BORDERS, AND LIMITS*

KIHIRA Eisaku, Foreword..... ( 1 )

**Articles :**

FUJISAWA Atsushi, Yamato and the Barbarians and the Ritsuryo State:  
Changes in the Archaeological Culture and  
Borders of States and Peoples..... ( 4 )

FURUMATSU Takashi, The Border between Khitan and Song under  
the Chanyuan Treaty System..... ( 28 )

MORIKAWA Tomoko, The Perso-Ottoman Boundary and  
the Second Treaty of Erzurum in 1847..... ( 62 )

GODA Masafumi, The Intended Partition of Frontiers  
from the *Reconquista* to the *Demarcación* ..... ( 92 )

IKEUCHI Satoshi, The Northwestern Border of Early Modern Japan..... (123)

TERAYAMA Kyosuke, Stalin's Ethnic Policies in the Northwestern Region  
of the Soviet Union during the Interwar Period:  
Finland, Leningrad, and Karelia..... (147)

YAMAZAKI Takashi, Boundary, Territory, and Political Behavior  
in Postwar Okinawa: Territorial Separation/Integration and  
the Ideologies of Struggles..... (179)

UEHARA Mahito, First Comment: '*National Borders*' and '*Boundaries*' as  
Seen from the Point of View of Archaeology..... (210)

HAMADA Masami, Second Comment: '*Boundaries*' in Historical Studies..... (217)

**Miscellaneous :**

---

*Published*

*by*

THE SHIGAKU KENKYUKAI

*(The Society of Historical Research)*

Kyoto University, Kyoto, Japan

定価 2,000円(税込)

ISSN 0386-9369